

「豊田市公共施設等総合管理計画（改定案）」における 意見募集結果の公表

1 概要

(1) 実施期間

令和6年1月15日（月）～2月14日（水）

※Eモニターは1月15日（月）～1月24日（水）

(2) 寄せられた意見の内訳

提出数：95通（意見数：139件）

分野	意見件数
1) 安全性・利便性の確保	30件
2) 機能と配置の最適化の実現	33件
3) トータルコストの縮減及び平準化	29件
4) 保有資産の有効活用の促進	20件
5) 施設の種別ごとに対する内容	9件
6) その他感想等	18件

2 寄せられた意見等とそれに対する豊田市の考え方

意見等の概要は、主旨を損なわない範囲でいただいた意見を集約及び要約しています。また、賛否の結論だけを示した意見や今回の計画と直接関係がない意見等（その他感想等）については、市の考え方は示していません。

1) 安全性・利便性の確保

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
自然災害や老朽化への対策を適切に実施し、利用者の安全・安心を確保してもらいたい。特に災害時に拠点となる施設は、優先して対策を行ってほしい。	26	公共施設等の管理において安全・安心の確保は最も重要ですので、確実に対策を実施します。また、自然災害への対策として重要施設の耐震化対策や避難所の停電対策等に取り組んでいます。
施設の老朽化対策を適切に推進するために、施設の状況把握や情報発信を行う必要がある。	1	施設の管理において、点検や健全度評価を定期的実施し、状況把握を行うとともに、施設カルテなどによる情報発信にも継続して取り組みます。

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
インフラ施設は日常生活に不可欠なものであるため、重点的に対応してほしい。	2	インフラ施設は日常生活に密接に関わっているため、重要度が高い施設は予防保全型の管理を行うとともに、点検・診断・評価の健全度評価に基づく対策を計画的に推進します。
インフラ施設の老朽化は全国的な課題であるため、先進事例の調査や新技術の活用などに積極的に取り組んでほしい。	1	インフラ施設の安全確保に向けて、これまでの対策に加え、ドローンを活用した点検等に取り組んでいますが、今後も新技術や民間活力の活用などの新たな手法を検討するなど、効果的な維持管理に取り組めます。

2) 機能と配置の最適化の実現

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
施設の再編は、地域の特性、アクセスの利便性、将来のまちづくりなど総合的な視点での検討が必要である。	14	施設の再編はまちの活力の向上や新たな価値の創出に向けて、アクセス性、施設の機能、利用者の特性、周辺施設の状況など総合的な視点から取組を推進します。
施設の再編（機能の複合化・集約化、適正配置）を積極的に進めるべき。	9	社会環境や利用動向の変化に柔軟に対応するため、公共施設等の再編（機能の複合化・集約化）や再配置により、将来に向けたまちづくりを推進します。
施設の再編には、丁寧な合意形成が必要である。	6	公共施設は市民生活や様々な市民活動と密接に関わるため、再編の検討に当たっては素案段階から施設の利用者や地域住民の方々から意見聴取を行うなど、丁寧な合意形成に努めます。
施設の再編にあたっては、施設の特性や提供するサービスの内容に応じて検討を行うべき。	2	施設の再編は、利用者の特性や提供しているサービスの点から相乗効果が期待できる施設の複合化を検討するなど、施設の特性等も配慮します。
施設の再編は、デジタル化の進展による、行政サービスの提供方法の変化等を踏まえて検討すべき。	1	デジタル化の進展により申請や各種手続きのオンライン化が普及し、行政サービスの提供方法が大きく変化することが想定されます。施設の再編においてもデジタル化の動向を踏まえて取組を推進します。
各地域に必要な公共施設を中学校に集約すべき。	1	施設の再編の検討においては、中学校区単位などの一定の圏域における利便性向上や活性化などの視点も考慮します。

3) トータルコストの縮減及び平準化

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
安全対策や施設の改修等を実施する際は、費用対効果を踏まえて、内容等を精査すべき。	12	施設の安全対策や改修は、緊急性、中長期的な利用動向、費用対効果など、様々な視点から最適な内容や手法等を精査します。
人口減少や利用状況の変化を見据え、利用が少ない施設の廃止・縮小や受益者負担の見直しなどに取り組むべき。	11	運営に課題を抱える施設については、人口動向や利用状況の変化を見据え、施設の廃止・縮小や受益者負担の見直しなど運営方法も含めた最適な対策を推進するよう努めます。
施設整備の際にはデザインや初期費用だけでなく、維持管理費用などのトータルコストを考慮してほしい。	5	施設の整備を検討する際は、維持管理・運営費を含めたライフサイクルコストも踏まえ、最適な内容・手法とするよう努めます。
長寿命化と再編等を組み合わせることでコストの縮減や平準化を図っていく必要がある。	1	トータルコストの縮減や平準化に向けて、管理手法の見直し、長寿命化、再編・廃止等による総量抑制の取組を総合的に推進します。

4) 保有資産の有効活用の促進

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
利用頻度が低い市有財産や空きスペースを有効活用することで、歳入確保を図るべき。	10	市有財産は適正保有と将来的な維持管理費の削減に向けた多様な利活用の推進を図ります。特に未利用や低利用の財産は早期の有効活用や歳入確保に向けた取組を推進します。
民間事業者のノウハウや資金を活用したり、民間事業者へ施設を譲渡するなど、民間活力を積極的に活用すべき。	5	施設の整備や管理において、民間活力を活用することにより、市民サービスや活力の増進、経費の縮減などが期待できる場合には、民間活力の積極的な活用を図ります。
同類機能でも地域によって利用状況が大きく異なるため、利用の分散を図るなど有効活用に向けた対策を検討すべき。	4	施設の有効活用に向けて、利用状況を的確に把握するとともに、施設単体ではなく同類機能や周辺施設なども含めるなど、複合的な視点から必要な対策に取り組みます。
施設の整備をする際は、中長期的な利用形態の変化に柔軟に対応できるようなレイアウトとするべき。	1	社会環境や利用動向の変化へ柔軟に対応するため、機能の複合化・集約化や再配置を推進します。

5) 施設の種別ごとに対する内容

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
学校は、老朽化対策、再編、脱炭素化の推進などに総合的に取り組む必要がある。	4	学校施設は児童・生徒数の動向や施設の劣化状況など総合的な視点から最適な対応を推進します。
学校は、プール、図書館、子育て施設との複合化や機能の連携による相乗効果が期待できると思う。	1	学校施設は本市でも交流館・こども園との複合化などの実績があるほか、他自治体でも様々な事例があるため、連携による相乗効果が期待できる機能等の調査や研究などに取り組みます。
交流館は、利用者の世代に偏りが生じているため、建て替えや改修の際には、幅広い世代からの意見を反映すべきである。	1	交流館は様々な市民活動を促進し、市民活躍を支援するための施設であるため、魅力ある学び・交流・活動機会の提供などにより多様な主体の活動場所となるよう、施設の整備・運営において幅広い世代からの意見聴取に努めます。
水道は、災害時にも重要な機能であるため、行政主体の運営を継続すべき。	2	水道事業者としての位置付けを維持しつつ、水道施設の維持管理等において段階的に民間活力を活用することで持続可能な運営体制を構築していきます。
公園・広場では、利用者の年齢層が変化しているため、保有量や機能の見直しが必要になると思う。	1	公園・広場は施設の設置方針や利用状況等を踏まえ、適正化に努めます。

6) その他感想等

意見等の概要	意見数	豊田市の考え方
その他感想等	18	—

3 提出いただいた意見を考慮した結果の計画

「豊田市公共施設等総合管理計画（改定版）」をご覧ください。また、計画の改定にあわせて公共施設マネジメントの取組を周知するための資料「ミライにつなぐ 豊田市の公共施設」を作成しました。